

北杜市図書館館長
ひろせ きみあき
廣瀬 公明



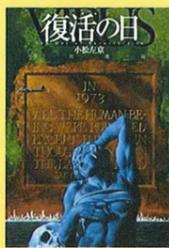
館長のおすすめ本

この4月に北杜市図書館館長に着任しました。読書嫌いではありませんでしたが、図書館の整然とした雰囲気はなぜか苦手な幼少時代を過ごしてきました。生まれは岩手で、この峡北の地域とは古代から多くの交流があったようです。蝦夷征伐のために甲信地域からは多くの兵を供給していますし、捕えられた多くの蝦夷もこの峡北の地域に移住させられたと言われています。またこの図書館に多くの資料を寄贈していただいた金田一先生の系譜は甲斐源氏の南部氏に繋がり、その甲斐源氏の最も古い段階の遺跡があるこの地での勤務は些かの縁を感じているところです。閑話休題。この春先からの新型コロナウイルス感染予防対策のため、多くのお客様をお迎えして図書館で楽しいひとときを過ごしていただくことがなかなかできませんが、安全を確保しながら実りある時間を過ごしていただけるよう微力ではありますが努めてまいります。

『天空の舟上・下』宮城谷昌光/著 文芸春秋
出土した金文や僅かに残された甲骨文字を手掛かりに、つい数十年前までは実在さえ疑われていた古代の夏商革命を描く。子どもの頃に読んだ『十八史略』では僅かに数ページの記述でしかなかったもののイメージが膨らむ。とにかく面白い。



『復活の日』小松左京/著 早川書房
冷戦時代を背景に生物兵器が開発され、これが漏れ出しパンデミックを迎える。さらにお互いの疑心暗鬼から最終的には全面核戦争が。映画化もされているが、個人的には、ささやかではあるものの、救いの残る原作の読後感が好み。



やまね便り

72号

特集

日本全国「本の旅」



「一度は見たい世界の風景」明野



「混迷の世相を解体・新書の力」すたま



「山を想う」たかね

展示紹介



「乙女の本棚」金田一



「今年の秋は本で旅する」ながさか



「地域を知る」小淵沢

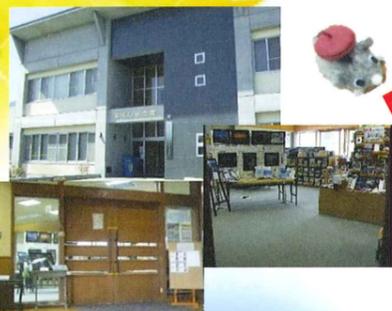


「時代小説」はくしゅう



「新聞で紹介された本」むかわ

やまねちゃんのたび in はくしゅう



こんにちは！
今日はライブラリーはくしゅうにやってきましたよ！白州支所も入っている「はくしゅう館」の中にあるんだよ。



「新刊本」と「書評本」のコーナー。どんな本が入ったのかな♪ワクワクしちゃおう！！



毎月が変わる「切り絵」などの掲示物が大好評♪季節感を味わいに来てね♪



絵本コーナー。絵本列車がお出迎え♪



ここは「数内正幸さんコーナー」数内さんの原画も展示しているよ♪



「甲州弁劇」と「手作り絵本教室」毎年楽しみにしている人が多いんだ♪



広いプレイルームで親子や友達と楽しく過ごせるよ♪電子レンジ、冷蔵庫も完備。おはなし会やイベントもここですよ♪



「時代小説」がたくさん！！何を读もうか迷っちゃう♪

ライブラリーはくしゅうは、「水」関連の本を集めているんだって。美味しい水の名所もたくさんあるね♪やまねちゃんの旅もいよいよ次が最後、たかね図書館へ行くよ。お楽しみに！

編集後記

今回の特集は「日本全国 本の旅」です。今までのように心も体も思いっきり開放して旅を楽しむことが出来ない状況の中、本の旅を提案させていただきました。路地を歩き、山を越え、海を渡り、時には時代や時空を超えて…心ゆくまで本の旅をお楽しみください。(明)



新館長紹介

ひろせ きみあき
廣瀬公明

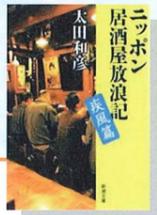
日本全国 「本の旅」



全国 Google Map も食べログもなかった頃の思い出

『ニッポン居酒屋放浪記』 太田和彦/著 新潮社

食がおのずと制限される山小屋で働いていた時期、この本は禁忌であった。一度手に取ったが最後…路地裏にひっそりと佇む居酒屋のカウンターにて酒杯を傾ける自分の姿が眼前に現れ、生唾を飲み込むのに苦労したものである。文中では探すスリルが失われてはつまらないとあえて店の情報は一切掲載されていない。“静岡のかね田食堂は巴川の河原沿いにポツンとあり、今宵はそのカウンターにて夕日の射し込む中、ガタゴトという鉄橋の通過音を聞きながら生しらすを堪能する”。休暇時、こんな文章を頼りに河原沿いを行きつ戻りつしていた頃がなつかしい。



松本 信州の風を感じながら

『神様のカルテ』 夏川草介/著 小学館

夏目漱石の『草枕』を白衣のポケットに忍ばせ、古臭い言葉を話す変わり者の栗原一止は、病院に勤務する内科医。その病院は長野県松本市にある。病院と彼が住むアパートまでの道のりには実在する神社や通り、店などがあり、住宅街の近くには国宝松本城がそびえ立っている。

一止が地域医療を支える病院での過酷な日々の中で、周囲の人々に支えられながら成長していく物語。2011年、2014年に映画化。信州の爽やかな風景と澄んだ空気が感じられる作品。



都道府県をまたぐ移動が思うようにできない今、本で日本を旅してみませんか？
図書館司書が選りすぐりの旅をご案内します！



活版印刷の魅力とは…？

川越

『活版印刷三日月堂』ほしおさなえ/著 ポプラ社

川越にある小さな印刷所「三日月堂」で、昔ながらの活版印刷を営んでいる弓子。そこには、様々な悩みを抱えた人達が来店する。弓子も訳ありの悩みを抱えているようで…。

番外編を含む全6巻。活版印刷を知るきっかけとなる一冊。小説の舞台となっている小江戸川越を歩きたくなった。



温泉と本好きにはたまらない魅力的な街

城崎

『城の崎にて』 志賀直哉/著 新潮社

城崎温泉に行ってみよう！と思ったのは、間違いなく『城の崎にて』があったからだった。温泉街には小さな川に橋がいくつもかかり、“外湯めぐり”をしながら情緒ある街をそぞろ歩く。多くの文人に愛された古き良き街と今風の洒落たお店が作り出す雰囲気心地いい。志賀直哉が13回も滞在した「三木屋」、城崎文芸館（キノブ）は「歴史と文学といで湯の街」城崎を知る上で外せないスポット。

さて、志賀直哉を惹きつけた城崎温泉と作品の魅力とは？



京都

おうちでまったり～秋の文学旅行～

『檸檬』 梶井基次郎/著 立東舎

主人公である、彼の心は“得体の知れない不吉な塊”に押さえつけられていた。そんな彼が心惹かれたのは、寺町通りのみすぼらしくて美しい果物屋だった。そこで売っていた「檸檬」を買って懐に入れると、なんだか心が晴れるのだった…。

鮮やかに描かれた京都の街並みと、梶井基次郎の世界観がぎゅっと詰め込まれている。人気イラストレーター・げみの書き下ろしで贈る珠玉の一冊をぜひ味わってみて！



沖縄

宦官としての”覚悟”を胸に

『テンペスト』 池上永一/著 角川書店

琉球王国・首里城を舞台に繰り広げられる、真鶴（寧音）の波乱万丈の人生物語。めまぐるしく変わる展開に、一度読み始めたら止まらないおもしろさ。舞台となっている首里城の再建を心から願っている。



瀬戸内

人生の最後に食べたいおやつは何ですか？

『ライオンのおやつ』 小川糸/著 集英社

ガンで余命を宣告された女性、雫。ひとり静かに旅立つため、瀬戸内の島にある「ライオンの家」というホスピスにたどり着く。そこでは毎週日曜日、入居者が食べたいおやつをリクエストすることができるという「おやつの日」があった。瀬戸内の島々の美しさと人々の温かさにつれた生活は、雫にとって「生きるということ」「死ぬということ」に向き合う大切な時間となった。そして雫がリクエストした「最後のおやつ」とは…。



全国

飲み会を楽しみに走る

マラソンだってあっていい！！

『なんでわざわざ中年体育』 角田光代/著 文芸春秋

小説家の角田光代さんは運動が大嫌いと言いながら、マラソン大会に出ている。大会後の飲み会が楽しくてマラソンクラブに入ったらしい。だから嫌々練習し、なんとなく大会に出ているそうだ。いきなりの東京マラソンに始まり、トレイルランニング、登山とあちこちに出かけている。嫌々の割には楽しそうである。そんなエッセイを読んでいると自分も参加してみたくなくなってしまふ。あぶない！あぶない！

